



# ふるコンだより

発行責任者

宇部市ふるさとコンパニオンの会

会長 脇 彌生

常盤中学校では、6年前から1年生によるときわ公園の野外彫刻の清掃活動が行われており、私たちは、そのお手伝いをしています。生徒数が多いためグループを二つに分けて実施され、今年は約170名が参加。彫刻清掃と交互に「宇部方式」のワークショップが行われました。環境政策課が用意した台本をもとに、生徒たちが市長・医者・市民・工場主の役になり、「ばいじん対策委員会」の会議を再現。話し合いを通して公害を克服した経緯を学びました。このような体験型の学びは、中学生にも分かり易く、有効な方法だと感じました。

## てくてくまち歩き「先人が守り 続けて 100 年の黒岩観音」

4/12

今回のてくてくまち歩きの目的地は、常盤湖の北側、黒岩山の中腹に位置する「黒岩観音」です。道重上人が1926(大正15)年に観音堂を創建してから、今年でちょうど100年。4月12日はその記念大祭の日でもありました。

道重上人は宇部村梶返の生まれ。幼名は勝五郎。13歳で山門松月庵の小僧となり、名を信教と改めて修行に励みました。30歳で松月庵住職、67歳で浄土宗大本山・東京芝増上寺の最高位である法主(ほつす)に就任。宇部出身として全国的に知られた人物です。

民衆に寄り添い、ユニークな逸話も多く、「一休さん」のように親しみやすい方であったと伝わっています。

当日は18名が2班に分かれて山門松月院を出発。途中、弘法大師を祀る山門の八十八か所や、開の古道の「道しるべ」を眺めながら、ゆっくりと黒岩観音へ向かいました。



<旧観音堂跡>

創建100年の記念大祭とあって境内は大賑わい。テントが並び、雅楽や舞が披露され、参加者の皆さんも接待を受けながら、他の参列者とともに祭りの雰囲気を楽しまれています。

現在の観音堂裏手には、礎石だけが残る創建当時の観音堂跡があります。すぐそばには湧水があり、黒岩山の成り立ちとともに説明を行うと、

皆さん熱心に耳を傾けていました。鉄分を含み保水力のある黒い蛇紋岩——この「黒い岩」こそが黒岩山の名の由来であり、常盤湖の原水域でもあります。湧水が貯まる場所が常盤湖であり、その水が稲田を潤してきたことをお話ししながらスポーツ広場へ向かいました。



<常盤湖の古地図を説明中>

常盤湖畔からココランドのある黒岩山を見上げながら、約330年前の元禄時代に、先人たちがこの地質や岩の性質を理解していたことに、皆さん感心されていました。

帰りは、1943(昭和18)年以降、末信から常盤湖へ厚東川の水を導く「常盤用水路」を見学しつつ、往路とは少し違う道を歩きました。皆さん元気に歩き、予定どおり12時に松月院へ帰着。午後の餅まきに参加される方もおられました。

アンケートには、「黒岩観音のことを初めて知った」「湧水や黒岩のことに興味がなかったが、今日はとても面白かった」といった声が複数寄せられました。足の不自由な方がおられましたが、後続は追い立てることのないよう距離を調整しつつ、必要に応じてサポートにも回れるよう、説明の長さなどで歩行ペースを工夫しました。

足の不自由な方からも、他の参加者からも「最後まで楽しく歩けた」と言っていたら、私自身も嬉しく思いました。身障者である妻の介護経験が役に立ったと感じた一日でした。(上田)

## てくてくときわ公園「生息環境 展示リニューアルから 10 年」

4/25

リニューアル10周年を迎えたときわ動物園を、ゆっくり歩きながら楽しむ「てくてく」です。当日は晴天に恵まれ、動物園の中へ進むと、入り口からハヌマンラングールまでの曲がりくねった通路の両側には木々が生い茂り、まるでジャングルのような雰囲気になっていました。リニューアル後初めて訪れたという参加者もおられ、どんな動物に出会えるのか期待が高まります。

シロテテナガザルは水堀の工事のため姿を見ることができませんでした。また、ハヌマンラングールも放飼場に出ていなかったため、寝室をガラスビューから観察しました。長い尻尾をすぐ近くで見ることができ、近づいてくる個体もいて迫力がありました。

ボンネットモンキーのエリアでは、リニューアル前に展示されていた船「ときわ丸」の話題で盛り上がりました。かつて船の周りを回ったり、下に降りて見たりした思い出を語り合い、懐かしい時間が流れました。

現在の展示場は、動物を見下ろすのではなく、来園者の目線と同じ高さ、あるいは見上げる位置に設計されています。ボンネットモンキーの岩山は高く、周囲の低い部分はガラスビューから観察できるようになっています。そのガラスビューからは、岩山のとっぺんで休むコツメカワウソの姿がちらりと見えました。4月6日に雄の「ボン」が亡くなり、現在はメスの「リン」だけ。姿が見られるのはまれで、見ることができたのは幸運でした。

ガラスのそばでは、ボンネットモンキーが近づいてきてこちらを観察している様子が印象的でした。人間がサルたちを見るというよりサルたちが人間を見ていると思えてきます。

中南米の水辺ゾーンでは、チリーフラミンゴが水に入り餌をついばむ姿が見られました。巣作り用の土が盛られていましたが、まだ使われていないようでした。参加者は脚や嘴

の形、動きを熱心に観察されていました。

リスザルはガラスに手のひらを押しつけてくれたため、特徴を説明しながら観察。

カピバラとクモザルのエリアでは、クモザルが木の上を活発に動き回り、長い手足や尾を器用に使う様子がよく分かりました。カピバラも水に入り、泳ぐ姿を見せてくれました。生き生きと動く動物たちを間近で感じられるのが「生息環境展示」の魅力です。



アフリカの丘陵・マダガスカルゾーンでは、パタスモンキーが金網の近くまで寄ってきて、そのひげを生やしたような愛嬌のある顔をじっくり観察できました。ミーアキャットのエリアでは、見張りのポーズをする個体はおらず、地面に寝そべる姿も見られ、思わず笑いがこぼれました。ワオキツネザルはのんびり歩き、特徴的な輪尾がよく見えました。

今回は通常の1時間ではなく2時間かけて園内を巡ったため、どの動物もじっくり観察することができ、参加者の皆さんもゆっくり楽しめた様子でした。最後に、モンスタで開催中の「ときわ動物園～10年の歩み」展をご紹介します。終了しました。（佐伯）

**てくてくまち歩き「トト滝、カ  
力滝、せせらぎ散歩」  
～里山ビオトープ二俣瀬・植物  
に想いを馳せて～**

5/30

「花は葉の変形したものである」これは1790年、ドイツの詩人であり自然科学者でもあったゲーテが提唱した植物変態論です。植物の地上部にある器官は、ひとつの基本形である「葉」が状況に応じて形を変えたものだという考え方で、道端や自然に咲く花々を

見る視点が変わりそうです。

この日は里山ビオトープ二俣瀬を歩きました。植物クイズに答えていただきながらの散策でしたが、理論はどうであれ、花の美しさは参加者がシャッターを押



＜二俣瀬ビオトープにて＞

す弾みになります。和歌や俳句にも詠まれる茅萱（チガヤ）の花穂の茅花（つばな）が風に揺れ、いっせいになびく景観は見事でした。

私たちが分け入った里山ビオトープ二俣瀬、25年も前から自然と人々が共存できる空間を目指し、有志や地域の方々によって保全活動が続けられてきました。その取り組みが評価され、山口県では初めて環境省より「自然共生サイト」として認定され、2025年3月25日に、現地で篠崎市長ご出席のもと、認定証授与式が執り行われました。

トト滝、カ力滝も全員で見学しましたが、「自然豊かで十分に楽しめました」「爽やかなビオトープの散策、気持ちよく歩けました」などの感想を頂きました。最後の永山本家酒造場の蔵めぐりは特に人気で、男性の心をしっかりつかんでいたようです。この日は定員が早々に埋まるほどの大盛況でした。（今城）

### 会員おすすめの1冊

『村野藤吾と俵田明』（堀雅昭著 弦書房 2021）

皆さんは、このお二人をご存じでしょうか。村野藤吾氏は、渡辺翁記念会館、宇部市文化会館、宇部銀行（現ヒストリア宇部）、宇部興産ビルなど、市内の主要建築物を数多く手がけた日本を代表する建築家です。また、国宝・赤坂迎賓館の改修設計も担当しています。

一方、渡辺翁記念会館の設計者として村野藤吾氏を起用した俵田明氏は、その後、戦時下に存続をかけて沖ノ山炭鉱など4社を合併して宇部興産を設立。初代社長となりました。本書では、この二人の人生がどのように交差していくのかを丁寧に描き出しています。舞台は宇部だけにとどまらず、「第二次世界大戦の直前に村野氏が見聞した当時の革新的な世界情勢」についても触れられており、読み応えのある内容となっています。ぜひ一度、じっくりと手に取ってみてください。（信濃）

### 1枚の絵葉書から ＜宇部名勝＞「セメント会社」



日本初の民間セメント製造会社である小野田セメント製造は、1881（明治14）年、笠井順八が士族授産を目的に設立しました。石炭・消石灰・粘土といった原料が小野田周辺で容易にそろったことも、創業の大きな追い風となりました。その後、日清戦争（1894）、日露戦争（1904）、第一次世界大戦（1914）を経て経済は好況となり、国内では大量のセメントが使われるようになります。工場建設が相次ぐ一方で、不況も訪れ、時代は安定を欠いていきました。

1923（大正12）年、宇部電気株式会社を山口県の県営へ移管する計画が進む中、渡邊祐策のもとに美祢郡伊佐の石灰石山譲渡の話が持ち上がり、これを買収します。さらに、周囲からセメント事業を勧められた渡邊は、宇部の石炭を燃料にし、石灰石や粘土も周辺から調達できる見通しが立つことから、郷土開発の基盤となる新事業としてセメント工業の創設を決意しました。しかし、計画は順調とはいきませんでした。

伊佐の石灰石山では採掘が難航し、粘土も地元所有者との折り合いがつかず、石灰石は福岡県恒見から船で、粘土は大分県から運ぶこととなります。ところが、機械据付のために来ていたドニー技師が沖ノ山炭鉱の廃土（ボタ）に着目し、これが粘土の代替原料になることを指摘。これにより粘土の自給が可能となりました。燃料には宇部の五段炭4割と三池炭6割を混焼し、粘土には沖ノ山のボタを使用することで、良質なセメント製造に成功しました。

渡邊祐策は創業 10 周年記念式で次のように述べています。「宇部市は天与の資源たる石炭の産出によってようやく繁栄を加えてきたが、これを市民安住の地たらしめるためには、生産諸工業を起し、天然資源の欠乏を補足しなければならぬ。宇部セメントはこの必要から計画された」

その後、伊佐からは大量の石灰石を運べるようになり、宇部伊佐専用道路では、石灰石やクリンカー（セメント製造時の中間製品）、石炭を運ぶ総重量 125 トンの大型ダブルストレーラーがノンストップで走行しています。全長約 32km の日本一長い私道は「宇部・山陽小野田・美祢産業観光バスツアー」でも人気を集め、全国から多くの参加者が訪れています。

UBE 株式会社は三菱マテリアル株式会社とセメント事業などを統合し、現在は UBE 三菱セメント株式会社として新たな歩みを進めています。ダブルストレーラーの車体色も、かつての宇部セメントの青色から白色へと変わりつつあります。

また、宇部セメントの歴史を語るうえで欠かせないのが、野外彫刻展への貢献です。セメントを東京や大阪へ運んだ帰りの空のバラ積みタンカー「清安丸」（8000 トン）に、作品を無償で積載して運搬していたのです。大型作品は甲板上に載せてシートで保護し、小型作品は船倉を清掃したうえでパイプを溶接して固定したといえます。

先日、コンクリート製の小さな彫刻「鳥とあそぼう」（1960 年、山内壮夫作）の清掃イベントが行

われました。この作品は、1956 年の「宇部産業祈念像」、続く「若人たち」制作後、当時宇部新川駅前にあった「ゆあみする女」がフランスの彫刻家ファルコネの模造品であったことから、「本物の



〈山内壮夫作「鳥とあそぼう」〉

彫刻を」との思いで制作・寄贈されたものです。材料には宇部セメントが使われました。

作品は現在の東新川緑地へ移設されましたが、約 40 年間十分な手入れがされず、苔や藍藻類に覆われていました。今回、洗剤を使った丁寧な清掃により、かつて噴水が出ていた穴も確認され、当初の姿がよみがえりました。

この作品が寄贈された翌 1961 年から、宇部市は隔年で野外彫刻展を開催するようになり、「彫刻のあるまちづくり」の大きな指針となりました。制作から 65 年を経た現在もほとんど劣化が見られないのは、作家の技量と宇部セメントの品質の高さゆえかもしれません。（脇）

### 常盤中 3 年生ときわ学 「宇部市の観光プランを提案する」



5 月 25 日（月）5 時限目、常盤中学校 3 年生を対象に「中学生目線で、主に若い人向けに校区内のときわ公園中心の旅行プランを提案する」という目的で、ときわ公園の出前授業を、ふるコンのメンバー 5 名が市職員や動物園職員と協力しながら行いました。

生徒たちは歴史・彫刻・植物・動物・石炭のテーマごとに分かれて教室を移動し、オブザーバーとして参加した私は各教室を見て回りましたが、動物園のテーマでは、教科書にも紹介されている「ときわ動物園の生息環境展示」について、木村飼育課長と当会の佐伯英子副会長が掛け合い漫才のようなテンポで授業を進めていました。6 時限目には、生徒たちが書き留めたメモをタブレットでまとめるため、各教室を回って助言を行いました。

さらに 5 月 28 日（金）2 時間目には、観光メニューカード作成のヒントを伝えました。若い感性で考えた観光メニューカードがどのようなものになるのか、とても楽しみです。（脇）

### ロンギヌスの槍と…

2023 年末、彫刻の丘に「ロンギヌスの槍」が刺さり、その後常盤橋の畔へ移設された頃から、石炭記念館の来館者に少しずつ変化が見られるようになりました。

「炭鉱を記録する会」会員でもある私が、故・木下幸吉さんの助っ人としてガイドを始めたのも、この時期です。

それまで平日の来館者は、展望台を目的とした宇部市民や、企業・大学関係と思われる理系の職人気質の方々が中心でした。ところが近年は、平日・休日を問わず、展望台から常盤橋を撮影する、明らかに旅行目的の方々が増えてきました。「ロンギヌスの槍」を撮影した人たちが、「池の向こうの建物は何か？」「SL があるぞ」「展望台から撮れそう」と興味を持ち、記念館へ足を運んでくださるのです。「どちらからお越しですか」と伺うと、「関東から飛行機で」「ライトアップを撮影して日帰りします」「これから山口県を巡ります」「ついでに見た石炭記念館の“ガチ感”に滞在時間が延びそう」といった声が返ってきます。

観光ガイドでもある私は、お客様の時間や要望に合わせ、TV 版の記憶や、コロナ禍に Amazon Prime で映画版をコマ送りして確認した宇部・山口の風景、鉄道の

知識などを総動員してご案内します。もちろん、宇部や石炭記念館の解説も欠かしません。こうして、エヴァンゲリオンだけでなく、さまざまなドラマや映画の情報をお客様から教えていただく機会も増えました。

2026 年現在、平日・休日を問わず、宇部以外からの来館者も多くなっています。小学校の社会見学で訪れた元子どもたちが、帰省ついでに友人や家族を連れて来館



＜ロンギヌスの槍と展望台＞

する姿も見られます。また、墓じまいを終え、「宇部の最後の思い出に」と記念館を訪れるご家族もいらっしゃいます。

どうぞ、思い出を語りにお越しください。石炭記念館は火曜日以外開館しており、展望台にも上ることができます。“マニアなガイド”をご希望の方、週末のどこかでお待ちしております。（遠藤）

### 吉賀町と彫刻展

「野外彫刻展の作品は、展示が終わったらどこへ行くのですか？」よくいただく質問です。大賞作品など数点は宇部に残りますが、その他の作品は作家との関係などにより、さまざまな場所へ旅立っていきます。宇部の彫刻ファンの中には、全国に設置された作品を巡る“彫刻旅”に出る方もいます。

皆さんは「島根県吉賀町賞」をご存知でしょうか。第 27 回 UBE ビエンナーレ（2017 年開催）から、故・澄川喜一先生とのご縁で創設された賞です。先生の生地・吉賀町六日市（よしかちょうむいかいち）には、受賞作品の数点と、その他の野外彫刻展作品が設置されています。こうしたつながりもあり、昨年 12 月には吉賀町六日市公民館の催しとして、20 名ほどの町民の皆さんが彫刻の丘を訪れました。当日は宇部では珍しい雪の日でしたが、吉賀町の皆さん

は雪に慣れたご様子。ただ強風のため、吉賀町賞受賞作品『見てくる犬』ほか数点を見学した後は早めに解散し、彫刻ビクターセンターや植物館、湖水ホール内アートギャラリーへと分かれて澄川作品を鑑賞されました。

宇部には、澄川先生の極初期の室内作品や、宇部新川駅前の『そのりのあるかたち』など、常時鑑賞できる作品もあります。その話題から四方山話に花が咲き、吉賀町の皆さんが澄川先生を身近に感じておられることが伝わってきました。「次回はもう少し暖かい季節に、市街地の澄川作品も一緒に見に行きましょうね」とお約束して別れました。

彫刻を通じて二つのまちが交流できたこと、そして長年宇部の彫刻展を導いてくださった澄川先生。本当にありがとうございます。2026 年 6 月現在、最後のビエンナーレ作品が彫刻の丘から離れ始めました。来年からは名称を「UBE 現代日本彫刻展」と改め、3 年に 1 度のトリエンナーレ形式で再始動します。今から楽しみで仕方ありません。（遠藤）

### 吉賀町賞受賞作品

- 2017 年『アフターアップル』
- 2019 年『風路』
- 2022 年『in Wave -Departure-』
- 2024 年『見てくる犬』

### まち歩き予定表

日時	集合場所・距離	内容
9/27 (土) 9:50~12:00	ときわ湖水ホール 約 2 km	<b>てくてくときわ公園</b> 「ビエンナーレ大賞・市民賞作品のナゾをさぐる」じゃぶじゃぶ池、彫刻の丘、桜山
10/10 (土) 10:00~11:00	琴崎八幡宮バス停後ろの駐車場 約 1.8 km	<b>古地図を片手にまちを歩こう</b> 「上宇部やさしいコース」① ※親子連れ大歓迎 渦橋、御旅所、福原邸跡、琴崎八幡宮
10/18 (日) 9:50~12:00	琴崎八幡宮バス停後ろの駐車場 約 3 km	<b>てくてくまち歩き</b> 「400 年前 領主福原公が治めた宇部、名君の功績はすごいんです」
10/24 (土) 9:20~12:40	JR 宇部新川駅前広場 約 6.5 km	<b>古地図を片手にまちを歩こう</b> 小串 この辺りは入海で島・鶴ノ島・黄幡の三つの島がありました
11/1 (日) 10:00~11:00	琴崎八幡宮バス停後ろの駐車場 約 1.8 km	<b>古地図を片手にまちを歩こう</b> 「上宇部やさしいコース」② ※親子連れ大歓迎 渦橋、御旅所、福原邸跡、琴崎八幡宮
11/7 (土) 9:30~12:00	琴崎八幡宮バス停後ろの駐車場 約 3.5 km	<b>古地図を片手にまちを歩こう</b> 上宇部西 福原邸跡、維新館跡、鎌田橋、中村地蔵尊

### ■申し込み、お問い合わせ

宇部市観光交流課 TEL(34)8353 FAX(22)6083 **当日連絡先 090-9060-9752 (脇)**

**※定員 30 名、受付は開催日の一か月前から 3 営業日前までです。**

\*こちらの QR コードからも申込できます。



